

エイム電子株式会社

エコアクション21環境活動レポート

2023年10月 ~ 2024年9月



発行日2024年10月 22日

～目次～

■組織の概要	1
■対象範囲、レポートの対象期間及び発行日	1
■環境経営方針	2
■環境管理実施体制	3
■環境経営目標	4
■環境経営計画と実施状況評価	5
■環境経営目標の達成状況	6
■評価と取組み	7
■環境関連法規制の遵守状況	8
■代表者による全体評価と見直し	8

AIM
AIM ELECTRONICS

1.組織の概要

1)事業所名及び代表者名

エイム電子株式会社 代表取締役社長 中山栄志

2)所在地

本社 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1353
本社別棟 : 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1354-4
物流センター: 〒252-0336 神奈川県相模原市南区当麻1107-20
R&Dセンター: 〒252-0327 神奈川県相模原市南区磯部1335-1

3)環境管理者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者: 総務部 主任 西田明弘
担当者 : EA21事務局 西田明弘
連絡先 : 電話 046-253-9881
FAX 046-252-7572

4)事業の活動内容

認証・登録対象活動

ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

5)事業の規模

活動規模	単位	R3年度	R4年度	R5年度
売上	百万円	1,330	1,290	1,280
従業員	人	74	75	76
床面積	m ²	830	1178	1,178

2.対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1)認証・登録範囲(全組織、全活動)

- ・認証・登録組織: 本社・本社別棟、物流センター、R&Dセンター
- ・認証・登録対象活動: ネットワーク用、AV用ケーブル及び周辺機器の製造・輸入販売

2)レポートの対象期間及び発行日

期間: 令和5年10月1日～令和6年9月30日

発行日: 令和6年10月 22日

エイム電子 環境経営方針

[理念]

当社は経営理念に「わたし達は、地球環境と社会に貢献します」を掲げ、地球環境問題への取り組みが企業経営における重要課題の一つであると認識し、地球環境に配慮した事業活動である、通信用ケーブル及び周辺機器の製造販売に積極的に取り組んで参ります。

[方針]

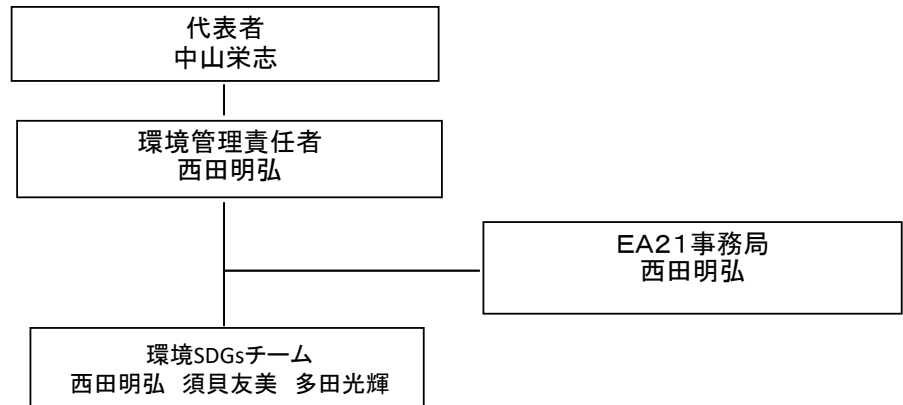
- 1) 事業活動の全域で省エネルギー、廃棄物削減、節水の推進に努めます。
- 2) 環境保全に配慮した製品の製造及び資材の購入に努めます。
- 3) 環境マネジメントシステムの継続的な維持向上に努めます。
- 4) 当社の活動に係わる環境関連法規、その他の要求事項を遵守します。
- 5) 環境方針を全従業員へ周知させるとともに環境教育及び啓発に努めます。

令和6年10月1日
エイム電子株式会社
代表取締役
中山栄志

4. 環境管理実施体制

作成 2024/10/1

承認	作成
中山	西田



	責任および権限
代表取締役社長	1. 環境管理責任者の任命 2. 環境方針の制定 3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備 4. 環境経営システムの取り組み状況の評価、見直し、必要な指示を行う。 5. 課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	1. 環境経営システムの構築、維持。 2. 社長への環境経営システムの実施状況報告 3. 環境経営システムの実施、維持、継続的改善を行う 4. それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施 5. 環境関連文書及び記録の作成・整理
事務局	1. 環境関連データの集計・管理、社内への情報提供 2. 環境管理責任者を補佐しEA21の取組みを推進する 3. 対外連絡窓口
チームメンバー	1. 環境目標達成のために1年間活動を行い、成果を報告する。 2. 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	1. 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 2. 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

(回覧ルート)

社長→環境管理責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
1.1	フロア別責任者制からチーム制に移行	2011.10.1	社長	松島
1.2	事務局の責任および権限を追加	2012.11.1	社長	松島
1.3	チーム構成を変更	2015.10.1	社長	松島
1.4	代表者を変更、チーム構成を変更	2016.10.1	社長	松島
1.5	EA21事務局担当者を変更	2017.10.1	社長	松島
1.6	チーム構成を変更	2022.10.1	社長	松島
1.7	環境管理責任者を変更 環境SDGsチームメンバーを記載	2024.10.1	社長	西田

5.環境経営目標

項目	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R5年度 実績		
	実績 (基準値)	目標	目標	目標	目標			
二酸化炭素排出量削減(kg-CO2)	7,479	7,000	6,950	6,900	6,850	7,376		
基準年比(%)	-	93.6%	92.9%	92.3%	91.6%	98.6%		
二酸化炭素排出量削減	本社電力(kwh)	40,213	40,000	39,800	39,601	39,400	43,998	
	基準年比(%)	-	99.5%	99.0%	98.5%	98.0%	109.4%	
	物流C電力(kwh)	37,199	37,000	36,815	36,631	36,500	39,039	
	基準年比(%)	-	99.5%	99.0%	98.5%	98.1%	104.9%	
	本社別棟電力(kwh)	8,760	8,700	8,657	8,613	8,500	8,867	
	基準年比(%)	-	99.3%	98.8%	98.3%	97.0%	101.2%	
	R&Dセンター電力(kwh)	9,544	9,400	9,353	9,306	9,200	11,154	
	基準年比(%)	-	98.5%	98.0%	97.5%	96.4%	116.9%	
	化石燃料	ガソリン燃費(km/l)	15.97	16.00	16.16	16.32	16.40	19
		基準年比(%)	-	100.2%	101.2%	102.2%	102.7%	119.8%
排水量削減(m ³ /人)	5.41	5.20	5.15	5.10	5.05	5.86		
基準年比(%)	-	96.1%	95.2%	94.2%	93.3%	108.3%		
コピー紙購入量削減(kg)	710	680	677	673	670	596		
基準年比(%)	-	95.8%	95.3%	94.8%	94.4%	83.9%		
一般廃棄物排出量削減(kg)	4,402	4,300	4,279	4,257	4,240	4,249		
基準年比(%)	-	97.7%	97.2%	96.7%	96.3%	96.5%		
産業廃棄物リサイクル率(産業廃棄物の適正管理)	99%	99%	99%	99%	99%	適性管理		
環境に配慮した製品作り及び資材の購入	RoHS2比率 70%	RoHS2比率 75%	RoHS2比率 80%	RoHS2比率 84%	RoHS2比率 86%	RoHS2比率 75%		
防災対策	実施	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化	防災・災害 対策強化		

※ 化学物質の使用無し。

※ 購入電力は、すべて再生エネルギー起因電力を使用しており、CO2排出係数は0です。

※ 表中の電力は購入量を記載。使用電力量としては、自社設置の太陽光発電量が加算されます。

※ リサイクル率は重量計測で排出する産業廃棄物で計算します。(99%以上が該当)

※ 産廃の適性管理＝産業廃棄物管理票交付、管理及び行政への報告、
産業廃棄物委託契約書の締結、産業廃棄物排出量(リサイクル量)の把握

6.環境経営計画と実施状況評価

R5年度環境経営計画・実施状況評価

基準年度：R4年度

実施状況／評価 ○：実施 △：一部実施 ×：未実施
 具体的なアクションは対象期間を通じて行う。

NO.	項目	年度目標 (R5年度)	具体的なアクション	責任者	実施状況	評価
1	二酸化炭素排出量の削減量の削減	7,479kg-Co2 ↓ 7,000kg-Co2 6.4%削減	下記、「1.2」を参照	西田	下記「1.2」を参照	△
1.1	電力使用量の削減	95,716kwh ↓ 95,100kwh 0.7%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・クールビズの励行、卓上ファンの配布 ・ウォームビズの励行、足温器の配布 ・エアコンの定期清掃による効率アップ ・待機電力カットの強化 ・省エネ啓蒙コラムのメール配信 ・電力使用量推移の掲示 ・エアコン温度設定の節電メッセージ表示 ・エアコン消し忘れタイマーの設定 	西田	○ ○ ○ △ × × ○ ○	△
1.2	自動車燃費の向上	15.97km/L ↓ 16.00km/L 0.2%向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド車両 優先的利用の周知 ・運転時の排気ガス削減方法を社内に告知 ・車両入替えによる燃費向上 	西田	× × △	×
2	排水量の削減 (従業員1人あたりの排水量)	5.41m ³ /人 ↓ 5.20m ³ /人 3.9%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・節水ポスターの見直し ・社内へ節水啓蒙のコラムをメール配信 	西田	△ ×	△
3	コピー紙購入量削減	710kg ↓ 680kg 4.2%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・裏紙利用の促進、ルール再確認 ・社内書類のペーパーレス、オンライン化促進 	西田	× ○	△
4	一般廃棄物排出量削減	4,402kg ↓ 4,300kg 2.3%削減	<ul style="list-style-type: none"> ・一般ゴミの分別の徹底 ・廃棄品の定期処理 ・ゴミ削減コラムのメール配信 	西田	× ○ ○	△
5	産業廃棄物リサイクル率 (産業廃棄物の適正管理)	リサイクル率99%を	<ul style="list-style-type: none"> ・マニフェスト管理票受領 ・行政への報告 ・委託契約書の締結 ・排出量の把握 	西田	○ ○ ○ ○	○
6	環境に配慮した製品作り及び資材の購入	RoHS2比率70% ↓ RoHS2比率75%	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客要望を中心に、RoHS2指令への対応を推進 ・RoHS2非対応、不明在庫品は順次入替え 	野村 (購買)	○ ○	○
7	防災対策	防災・災害対策の強化 (目標管理無し)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズ／非常食・水の点検、充実化 ・避難訓練の実施 ・安否確認メールシステムの運用開始 	元木 (総務)	○ — ○	○

※「環境経営計画」においては、具体的なアクションの実施有無による評価(○・△・×)を記載
 ※数値目標に対する達成度については、「環境経営目標の達成状況」に記載

7.環境経営目標の達成状況

今年度の環境保全活動が終了し、社長と環境管理責任者が環境への取組結果の評価を行った。
評価結果は次の通りである。

No.	推進項目	単位	責任者	年度目標	年度実績	評価
1	二酸化炭素排出量削減	kgCO2	西田	7,000	7,376	×
1-①	二酸化炭素排出量削減 本社電力	kwh	西田	40,000	43,998	×
1-②	二酸化炭素排出量削減 物流C電力	kwh	西田	37,000	39,039	×
1-③	二酸化炭素排出量削減 本社別棟電力	kwh	西田	8,700	8,867	×
1-④	二酸化炭素排出量削減 R&Dセンター電力	kwh	西田	9,400	11,154	×
1-⑤	二酸化炭素排出量削減 ガソリン燃費	km/ℓ	西田	16	19.07	○
2	排水量削減	m3/人	西田	5.20	5.86	×
3	コピー紙購入量削減	kg	西田	680.00	596	○
4	一般廃棄物排出量削減	kg	西田	4300.00	4,249	○
5	産業廃棄物リサイクル率 (産業廃棄物の適正管理)		西田	99%	100%	○
6	環境に配慮した製品作り 及び資材の購入		野村	RoHS2比率 75%	RoHS2比率 79%	○
7	防災対策		元木	防災・災害後 対策強化	実施	○

注1)自動車燃費の計算は以下による。

給油量(ガソリン(営業車のみ)):216ℓ、走行距離:4120km

注2)排水量の計算は以下による。

水使用量:445.5m3、人数:76人

8.環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

【電力使用量】

全体で前年比約8.3%増となった。

原因の一つとしては夏場の猛暑によるエアコン使用量の増加が挙げられ

8-9月における200V電気使用量(主にエアコンで使用)が、8.7%増となった。

一方で、物流センターにおける200V電気使用量は0.8%減となっており、要因としてはレイアウト効率化に伴いエアコン前を荷物がふさいでしまう等が無くなり冷房効率が上がったと考えられる。

全体への電力使用量揭示が今期は滞ってしまう等反省点があったので、次年度は今一度全社への啓蒙活動を中心に見直しを進める。

【ガソリン燃費】

前期までの燃費計算では、期の最後に給油をした時点から、期末までの走行距離が含まれていなかったため、今期から期中の総給油量と総走行距離から算出をする計算方法へ変更をした。

HV車の入替え(プリウス⇒カローラ)による燃費向上もあり、結果として前年比約19%の向上となった(プリウスは約19km/L、カローラは約26km/L)

但し、啓蒙活動は今期も特に実施出来ていなかったため、次年度は1件以上の活動を実施したい。

【排水量】

1名あたりの排水量は前年比約12%増となった。

物流センターの総排水量が前年比57%増となってしまった事が要因であり、後から確認をした結果トイレタンクの不具合により一定期間水が流れっぱなしになっていたものと見られる。

期末にトイレタンクの修理は実施したが、排水量の増加した時点で確認が出来る運用に次年度以降取り組める様にしたい。

【コピー紙購入量】

前年比約12%減となった。

各部門において紙出力していた内容をデータ化する等ペーパーレスの試みや、これまで発行していた書面自体を取引先との調整により発行自体を無くす(購買課の支払明細書等)、紙使用量の削減に取組んだ結果となった。次年度以降もペーパーレス化への改善を全社的に推進する。

【一般廃棄物排出量】

前年比約1.2%減となった。

SDGsへの取り組みの一環として、日本全体におけるゴミ排出量や、これまでの会社での排出量推移、ゴミ問題についての啓蒙活動を実施した事が要因の一つと考えられる。

ペットボトルの蓋の分別、持ち込み等も推進したので、次年度以降も自社だけでなく、広い視野で見て適切な取組みを推進したい。

【産業廃棄物リサイクル率】

当社の産業廃棄物は再生可能品は総て分別し、リサイクルしている。

●今後も分別の徹底を続けます。

【環境に配慮した製品作り】

2019年7月のRoHS2指令の施行に伴い、対応製品への切替を順次実施。

●在庫品の内、79%がRoHS2対応へ切替済。

【防災対策】

今期から全従業員を対象とした安否確認サービスを導入。

次年度以降、定期的なテストを行い、従業員全員が災害時に迷いなく

使用出来る様に訓練を進める。

○代表者の前期指摘事項に対する取組について

会社車両の入替え

⇒プリウスからカローラへHV車入替えを実施したが、啓蒙活動は実施に至らなかった。

カーボンニュートラルへの取組み

⇒対応する人員の不足や別業務への負荷が高く、取組む事が出来なかった。

次年度では、取組みまではいかないまでもどのような取組みが出来るかの

検討を進められるようにしたい。

■次年度の環境経営目標・計画は期初の目標・計画から変更なし

9.環境関連法規制の遵守状況

内 容	過去3年から現在までの結果
遵守状況の確認 及び評価結果 法律違反の有無	環境関連法規等の遵守状況及び違反、訴訟等の有無については、受審事業者に適用される主な環境関連法規等の一覧及びそれらの遵守状況を確認した結果として、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。
訴訟の有無	なし

適用環境関連法規等	適用される事項 (施設、物質、事業活動等)	確認	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理、産業廃棄物 (金属クズ、廃プラ)マニフェストの交付	○	2024/10/1
容器包装リサイクル法	容器包装廃棄物の適正処理	○	2024/10/1
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	○	2024/10/1
小型家電リサイクル法	使用済み小型電子機器の適正処理	○	2024/10/1
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検、管理 冷媒用フロンの適正回収、破壊の措置	○	2024/10/1

10.代表者による評価と見直し

環境目標の達成状況について

二酸化炭素排出量の削減に向けて、全社として何に取り組むべきか
緊急度・重要度が明確になっていない。

また、結果を見て、削減が出来た出来ていないではなく
どうしてその結果になったのか、原因分析が十分に出来ていないので
会社として何を重視していくか判断する為の材料が不足してしまっている。

例えば、現状社内で二酸化炭素を最も多く排出しているのは
車両(ガソリン・軽油)だが、車両の再選定やその他対策に
ついて検討が進められていない。

中長期的な視点でも構わないので、緊急度・重要度を鑑みて
明確な目標を設定してほしい。

来期への取り組みについて

電気使用量は結果のみで、原因分析が十分にできていないので
稼働時間や人数、売上等何が要因となっているのか、分析してほしい。

防災対策として安否確認サービスを新しく導入したが、テスト含め
どのような結果で、どう対策すべきかのフォローが出来ていない。
来期は仕組みを入れるだけでなく、有効に継続する為の動きを
してほしい。